

# 重い障がいがあっても「工賃を稼げる」事業所へ

— 生活介護事業所としての再スタート！地域連携でつくる野菜マルシェ —

宮城県 社会福祉法人仙萩の杜 まどか西中田

生活介護事業所

理事長／施設長 松木 知徳

## 事業所、プロジェクトの概要

生活介護事業所「まどか西中田」は宮城県仙台市にあり、就労継続支援 B 型と生活介護を併設していた。しかし、重度障害のある利用者が多いため 2023 年 8 月に生活介護へと統合した。しかし、生産活動を続けたいという利用者の声を踏まえ、「工賃」の稼ぎ生産活動を通じた「生きがい」を提供できる事業を目指すことで全職員が合意した。7人の地元農家の力を借り、良質で安価な「100 円野菜」を打ち出し「野菜マルシェ」を立ち上げた。さらに、社会福祉協議会や町内会等の協力を受け、イベント出店の依頼や新聞報道など反響が広がり、事業所は地域の人が集う場所になりつつある。



地元の農家さんと事業所前で

## 新たな取組みと工夫点

収穫したての野菜を地元農家から直接仕入れ、職員の支援のもと、利用者が袋詰め、販売を利用者が担当する。一方、協力農家にとっても配達の手力などを一部軽減することができるなど価値を提供したいと考え協力を先を探した。継続した活動の中で、地域住民と利用者や職員とのコミュニケーションが生まれ、[Instagram](#) 等でも発信を行っている。

「3年後の事業所のありたい姿」を職員会議で合意形成し、利用者、保護者にも一人ひとり説明をしたうえで進めてきた取り組みだからこそ、地域の関係者の協力を得られるプロジェクトになっている。重度障害者が働く価値を考える機会として、就労支援を行う事業者の方にも知っていただきたい(プロジェクトの内容は[note](#)の記事などでも発信)。



野外イベントでの販売も実施

## 成果と今後の展望

本取り組みで生活介護事業所として当初の予想を大きく上回る売上・利益を挙げている。また、事業所に野菜を求めて地域の方々が来所するようになり、地域とのつながりが格段に強まった。今ではボランティアも参加し、利用者のみなさんがイキイキと生産活動に取り組む姿が見られるようになった。

今後は、一人ひとりの作業スキルを育てる「能力開発」のみならず、一人ひとりに合わせた作業を創造する「ジョブ開発」に地域で取り組み、誇りをもってイキイキと通所できる事業所を築いていきたい。

(リンク)

★プロジェクトの詳細(法人理事長 note 記事)

[https://note.com/vast\\_seal2263/n/n09826952b4b7](https://note.com/vast_seal2263/n/n09826952b4b7)

★事業所の様子(Instagram: フォロー大歓迎！)

[https://www.instagram.com/p/C\\_ouvCLApez/](https://www.instagram.com/p/C_ouvCLApez/)